

自然活用地域に元気

エコツーリズム 全国の実践例報告

自然保護と観光を両立させる「エコツーリズム」を考えるフォーラムが25日、広島市中区八丁堀の広島YMCAホールであった。NPO法人の代表らが全国各地の実践例を報告。県内外から約80人が参加した。

瀬戸内海のエコツアーやツアーガイドの育成などを目的に、昨年10月、県や呉、廿日市の両市などで設立した「瀬戸内ツーリズム推進協議会」が企画した。NPO法人日本エコツーリズムセンター代表理事の広瀬敏通さん(61)は、様々な自然体験ができる「自然



広瀬敏通さん

学校」が全国で約3700カ所、広島県に約100カ所ある現状を報告。「衰えつつある地域の新たな担い手となり、自然や文化を活用した産業も生まれる。地域を元気にする有効な手法の一つ」と説明した。

一方で、一般の農家がツアーで採れたての野菜を調理し提供することなど、現行法では違反となる行為も多く、「エコツーリズム推進法が、弾力的に運用されれば」と期待を込めた。

この日は、高知県黒潮町で4ヶ所の砂浜を活用し、町おこしに取り組むNPO法人砂浜美術館の村上健太郎事務局長(35)らも講演。協議会は来月、廿日市の宮島周辺で、外国人を対象にした船によるツアーも計画している。

(水田道雄)



高品質

専門店ならではの
ご予算に応じて、世
オリジナル商品を

宝石リフォー